

第 1 号議案

2024(R06) 年度事業・決算報告 ならびに監査報告

1. 2024 年度 事業報告
2. 2024 年度 決算報告
3. 2024 年度 監査報告

1 . 2024 年度 事業報告

2024 年度事業ならびに活動報告

特定非営利活動法人 安全工学会

2024 年度は、新型コロナウイルス感染症（コロナ禍）を経て、従来の通常の活動を取り戻し、またコロナ禍を通して定着した会議やセミナーの手法（インターネット開催など）を取り込み、活用し、学会活動が一新された。

1. 事業活動報告

2024 年度は、従来の学会活動を回復し、更に、新たに発足した運営会議、国際交流 WG、広報 WG（2022 発足／理事会直下の組織）を駆使して、更なる学会活動の具体化、実現、発展を図った。一方、併せて来る 70 周年（2027 年）を控え（後半の 7 年目に突入）、継続した学会構想の練り直し及び検討作業に向け、仕組み創りの準備を進めた。

12 月 5 日（木）～6 日（金）の日程で、富山市国際会議場に於いて、第 57 回安全工学研究発表会を行った。ハイブリッド形式で開催し（発表 77 件、ポスター 15 件）、264 名（現地 214 名）の参加を得た。詳細な解析には至っていないがプレスリリースや他学会への呼びかけにも尽力し、通常よりも多くの参加者を得た。併せてパネルディスカッションやポスターセッションなどの新たな試みを実施し好評を得た。

一般的に活動の「具体化」「実現」「発展」の具体的な方法・形態の一つとして、「研究会」活動が挙げられ、この活性化を支援した。学会内（学会員各位）に在る、又は生まれようとしている新たな研究会の種を見出し育て発芽を促してゆく（ボトムアップ）とともに、学会の将来構想から生まれる（トップダウン）研究会の育成を図った。前者（ボトムアップ）の一つとして、医療安全研究会は 2005 年 6 月 11 日（土）に第 1 回が開催され、最近では 1 回／2 ヶ月のペースで開催されている。医療現場のインシデントに焦点を当て、詳細な FTA 解析を実施し、更に STAMP/STPA 解析、S-A プロセスチャートなど新しい解析技術を併せ、検討を進めている。

産業防災研究会は、2023 年度開催した 4 回の懇話会から新たな展開に進む方向を模索し、人員を拡大して新たな段階に進むべく準備に取り掛かっている。懇話会を通じて集まった新たなメンバーを加え、これまでの「NATECH 安全管理フレーム」の構築作業に加え、「NATECH に関する設備設計上の基準」、「行政・住民との平時/自然災害時のコミュニケーション」などへ、勉強会や懇話会を通じて間口を広げてゆく。

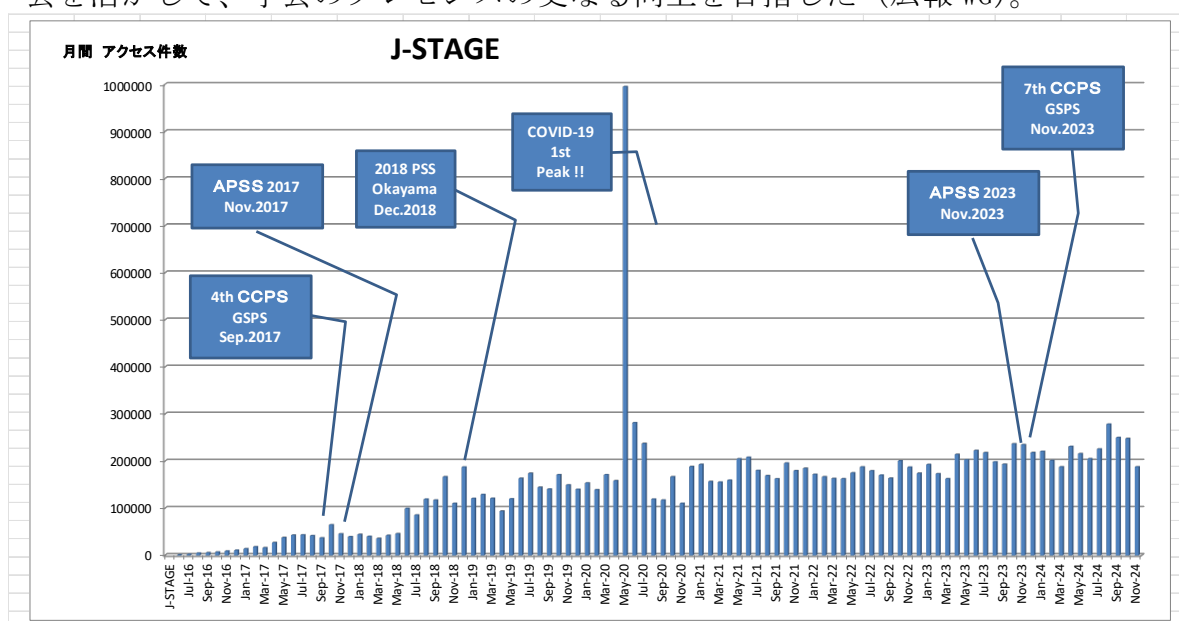
静電気災害防止研究会は、2023 年 3 月 3 日（金）に第 1 回を開催しこれまでに 3 回の講演会を通じて情報を発信し、質疑やアンケートなどを通じて参加者から情報を収集してきた。今年度（2024 年度）もこのような活動を続け（3 回）、個別な案件への対応などから、学会としての新たな情報発信活動へ展開してゆくことを模索した。

地域活性研究会は、「地域活性の一つの大きな柱になるのは安全（工業振興、農業振興、観光振興）」、また「安全から様々な振興策を模索する試みが生まれないか」といった視点から発足した。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、本格的な活動を開始することが 2024 年度の目標であったが残念ながら具体的な進展には至らなかった（7th GSPS は観光庁の「ポストコロナにおける国際会議誘致競争力向上実証事業」の対象と

して実施することで地域活性化に寄与できた面があった等に留まる)。

後者（トップダウン）の一つとして、安全工学会をとりまく周辺領域から学ぶ活動を志向しているが、安全工学と人間工学との境界領域に着目した新たな研究会の創設を目指す動きが伺えた（研究発表会での PD「ヒューマンファクターに関する新たなリスク評価の考え方の検討」を端緒とし）。

他の一つの方法・形態として「安全工学誌」や他の出版物による情報発信や、学会のホームページを介しての情報発信がある。広く世界に情報を発信する視点から、安全工学誌への英文での投稿・寄稿を奨励し、安全工学誌の論文及び J-STAGE での即時公開部分を増やし（投稿論文及び技術ノート）、ホームページや刊行物紙面などの改善に努め、学会内外への発信力を向上した（ホームページの CMS のサポート終了予告に対する移行先検討など再構築なども検討中）。加えて研究発表会のプレスリリースなどの機会を活かして、学会のプレゼンスの更なる向上を目指した（広報 WG）。



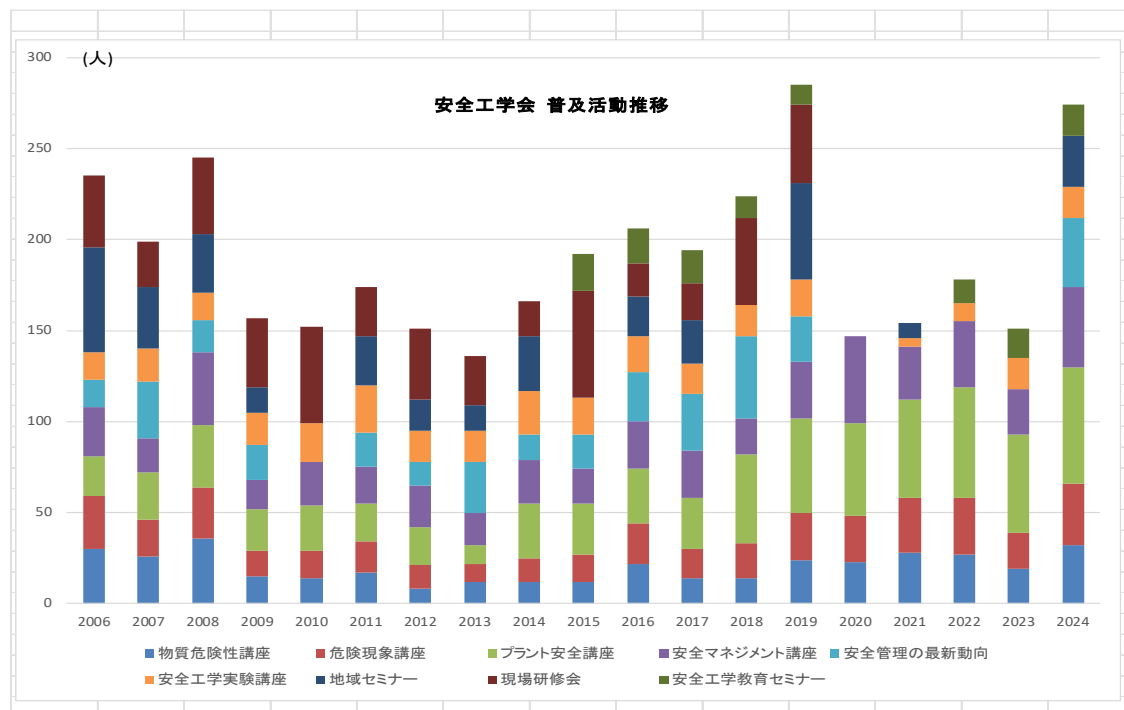
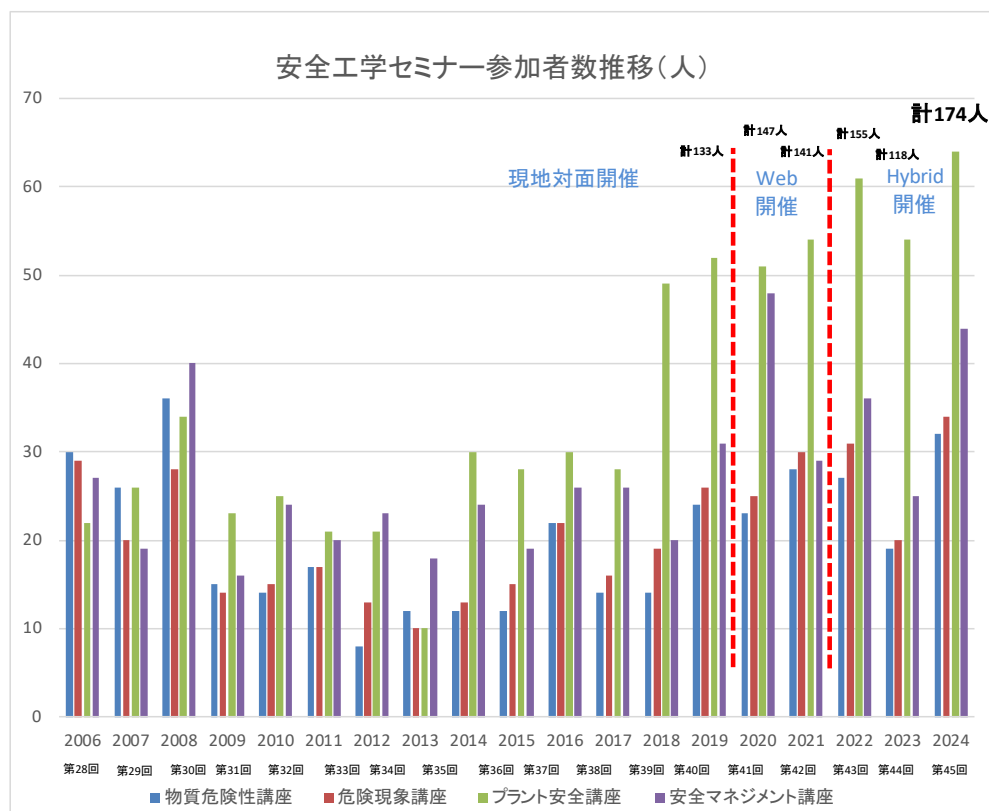
これまでの3年間にわたるコロナウィルス感染症拡大の間に、WEB 会議・講演会の有効性が認識され（参加者の拘束時間の短縮、出張経費の削減など）新たな情報交換手段として実効を重ねた。さらに待望される現地対面開催と WEB 会議の、ハイブリッド開催が注目された一方、大規模なハイブリッド開催では、それぞれ異なる会議場の設備機器と Web 環境との調整に、場合によっては多大な技能と機材・費用が掛かることが明らかとなってきた（毎年の研究発表会や 7th GSPS 他）。

2024 年度は、現地対面の従来の姿を取り戻し（地域セミナー・安全管理の最新動向講習会等の再開）、更に WEB やハイブリッド開催の有効性を活かした開催形態を実施しながら講演会、セミナーなどの普及事業を進めた。

安全工学セミナーは 174 名の参加者（現地対面及びインターネット）があり盛況を修めた。安全工学実験講座も日本カーリット(株)危険性評価試験所（赤城工場）において 17 名の参加者（定員）を得た（現地対面）。安全管理の最新動向講習会は体制を整え形態も修正し（大阪会場および東京会場の 2 か所で 3 週間の間隔をとり／ハイブリッド開催を活用）、安全工学会をとりまく周辺領域から学ぶ活動を志向する一環として、各々「社会安全の視点から」「原子力分野から学ぶ」と題して実施した（延 34 名参加）。安全工学地域セミナーは海上災害防止センターのご協力のもと「安全工学地域セミナ

一（横須賀・東京湾地区）」を東京湾の第二海堡にて実施した（参加者 28 名）。

また地域企業（団体）支援セミナーの一環として講師の派遣を行った（2 件）。災害事例研究会は残念ながら開催を検討したものの、適切な事案がなく、開催できなかった。



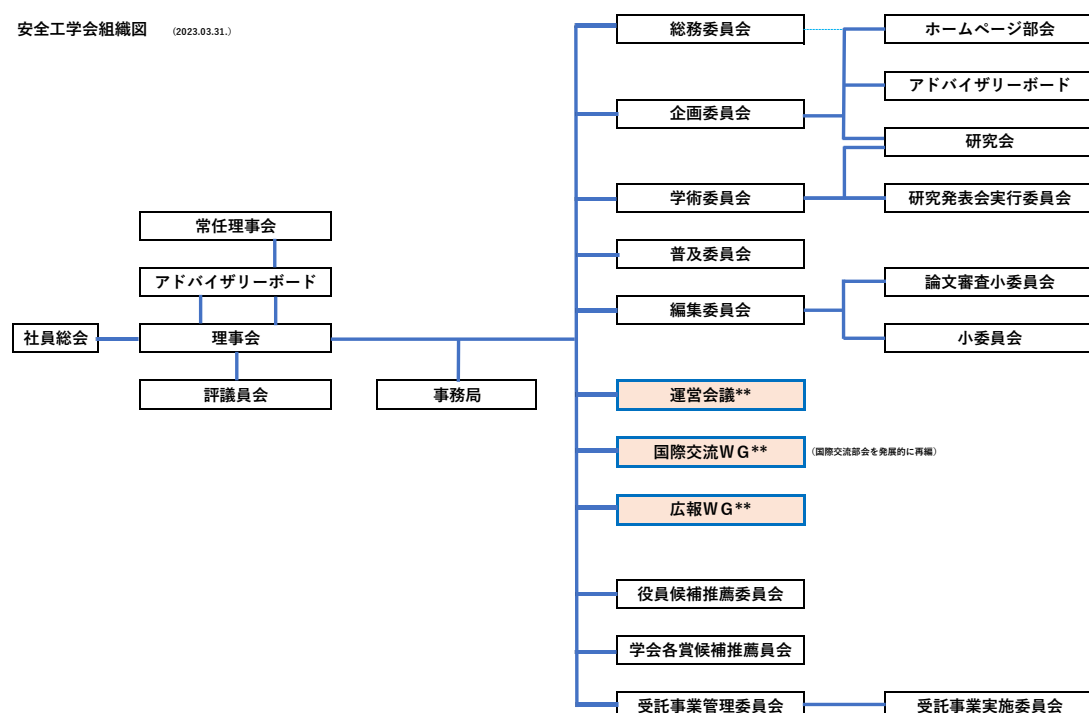
併せて周辺学協会との連携に努め、講演会、セミナー、講習会などの集客増を図り、会議やセミナーの開催についても連携を継続して強化した（化学工学会など）。学会の将来構想に基づいた戦略的な連携を引き続き模索する。

安全工学会誌の論文などの発表は、会員の研究成果の発表の場として、また学会からの知識・情報の発信の場として重要な役割を果たしている。2024 年度も研究会などの成果を積極的に発信した。また安全工学誌は「安全工学」を軸に非常に幅広い分野の論文を受け入れており、この点は世界的にも稀有な存在でありこの特徴を大切に育てている（J-STAGE の活用や英文原稿の奨励など）。

2024 年度の学会の研究奨励・表彰事業は、玉置功労賞 1 名、北川学術賞 1 名、論文賞 1 名、学術技術奨励賞 1 名、優秀講演賞 2 名、学生講演賞 3 名を表彰した（詳細は「報告事項」参照）。表彰式は総会に合わせて開催予定）。

2024 年度は、APSS の開催、韓国安全学会（KOSOS）との協力関係の樹立（MOU の締結による相互訪問による交流促進など）など、国際交流に努めた。2025 年度も継続して国際交流に努めてゆく（国際交流 WG）。

安全工学会組織図 (2023.03.31.)



1) 安全工学会 研究会活動

★トップダウン型／企画委員会

★ボトムアップ型／学術委員会

医療安全研究会

産業防災研究会

静電気災害防止研究会*

地域活性研究会*

「*」：第51回学術委員会で承認、第308回理事会に報告

2) アドバイザリーボードは将来構想とリンクして再構築中(企)

3) 事業所長意見交換会は全国を1周して、次の企画を検討中(企)
⇒石油化学工業協会、日本化学工業協会、保安力向上Cなどと連携

4) 受託事業実施委員会は受託事業ごとに対応

「**」：第308回理事会で「その他委員会」として設置

2. 事業内容 特定非営利活動に係る事業

2. 1 安全工学に関する研究・教育事業

① 安全工学に関する研究

学術委員会を中心に安全工学及び安全工学教育に関し検討を進め、普及、啓発活動に注力した。研究会活動（ボトムアップ）の活性化（医療安全研究会、産業防災研究会、静電気災害防止研究会、地域活性研究会など）、再構築に努力した（特に学術委員会から産み出す研究会活動を模索した）。

② 安全工学シンポジウム 2024「技術・社会の変化と安全工学のパラダイムシフト」 安全工学を軸とした、横断的な研究発表会への参加（日本学術会議主催）。

開催月日：2024年6月26日（水）～6月28日（金）

開催場所：日本学術会議

参加者：2910名

主催：日本学術会議 幹事

学会：特定非営利活動法人 安全工学会

共催：安全工学会ほか30学協会（幹事学会を除く／実績）

③ 安全工学研究発表会（第57回）

安全工学会の研究成果の発表会を開催する。同時に安全工学に係る情報交流の学術及び技術の切磋琢磨の場を、産官学また学界や各協会を横串として貫く形で提供する。

開催月日：2024年12月5日（木）～12月6日（金）

開催場所：富山国際会議場（富山県富山市）

参加者：257名（現地211名）

④ 2024 プロセス安全シンポジウム（2024 PSS）

今年は第57回安全工学研究発表会と別途開催を試みたが、2025年度開催に繰り延べることとなった。

⑤ 研究・教育事業管理

対象委員会・研究会

学術委員会	4回
-------	----

安全工学研究発表実行委員会	1回
---------------	----

医療安全研究会	3回
---------	----

産業防災研究会	12回（必要に応じ短時間、複数回も）
---------	--------------------

静電気災害防止研究会	3回
------------	----

地域活性研究会	-回
---------	----

新規研究会の立ち上げ	随時
------------	----

2. 2 安全工学に関する普及啓発事業

2.2.1 一般普及事業

(1) 会誌“安全工学”

①発行 印刷物の発行	年6回／433ページ（Max. 480ページ）
------------	-------------------------

②電子化推進

J-stageの公開 2016年6月発行分～実施済み、逐次更新

J-stage公開の推進（2023年Vol.62, No.4より、論文・技術ノート of 即時公開化）

③英文誌の検討

当面は現行の枠で英文原稿の増加（英文原稿の提出を奨励する）に尽力する。

(2) 講習会・セミナー

①第46回安全工学セミナー

物質危険性講座 2024年08月27, 28日
危険現象講座 2024年10月16, 17日
プラント安全講座 2024年11月12, 13日
安全マネジメント講座 2025年01月23, 24日
実施予定場所 ハイブリッド開催（現地／アロマビル他、Web／Zoom）
参加人員 計176名

②第21回安全工学地域セミナー

開催月日 2024年6月7日
実施場所 海上災害防止センター（横須賀、第二海堡）
参加募集人員 28人

（2024年秋頃に22回目を予定したが「地域企業支援セミナー講師派遣」で実施）

③第34回安全管理の最新動向講習会

開催月日 2024年09月13日（大阪）「社会安全の視点から」
2024年10月04日（東京）「原子力から学ぶ」
実施場所 ハイブリッド開催（現地：関西大学、アロマビル）
参加人員 38名

④第22回安全工学実験講座

開催月日 2024年7月18日（木）～19日（金）
実施予定場所 日本カーリット（株）赤城工場 危険性評価試験所
参加人員 17人

⑤災害事例研究会

開催月日 2024年未実施

⑥地域・企業支援セミナー

日本全国の地域・企業への講師の派遣 2件

⑦安全教育セミナー

安全教育担当向けセミナーの継続開催の推進
開催 月日：2025年2月18日（WEB）、28日（現地）
実施場所 三井化学株式会社（茂原分工場）技術研修センター
参加募集人員 12人

⑧普及啓発事業管理

・対象委員会・研究会等
編集委員会 12回
普及委員会 4回
・会誌への広告募集管理 逐次

(3) 図書販売・会誌の年間購読販売

法人事務所にて図書販売等を実施する。安全工学便覧第4版の販促（継続）。

2.2.2 普及啓発事業：受託事業

経済産業省の新規事業に注目し、受託事業管理委員会管理下、対応可否を検討する。
今年度は進展なし。

2.3 安全工学に関する調査及び情報収集提供事業

ホームページを充実させ、会員への情報提供を推進する他、意見交換システムの検討を行った。また、非会員へのPRを推進する（継続）。

2. 4 安全工学研究の奨励及び研究活動等の表彰

安全工学に貢献した学術業績、優秀論文、功労者を表彰する。玉置功労賞・北川学術賞、学術技術功労賞について、学会員に推薦を応募する方法を採用した。2024年度も継続して実施し、安全工学論文賞、玉置功労賞、北川学術賞、学術技術奨励賞、優秀・学生講演賞を審査の上、授与した（総会にあわせて表彰）。

2. 5 安全工学に関連する国内外の団体との連携及び協力

安全工学に関連する学協会に加入し、情報を得ると共に安全工学の発展のために協業を模索する。国際的には、APASES (Asia Pacific Association of Safety Engineering Societies, アジア太平洋安全工学学協会連合) に参加（継続）、APSS（共催及び会員の交流）、CCPS、ICSI、韓国安全学会（KOSOS）（MOUに基づく年会での相互交流）などとの情報交換を継続、発展させた（継続）。

① 諸会費

日本工学会、高圧ガス保安協会、防災学術連携体などに会員として加入（継続）

② 安全工学シンポジウム 2024 他

③ 防災学術連携体、日本化学連合（オブザーバー）への参加を継続し、接点を模索する。

④ 化学工学会、石油化学工業会、日本化学工業協会、化成品工業会、（独）情報処理推進機構などの周辺学協会との連携を深める。

2. 6 管理業務

① 総会 1 回開催

開催月日：2025 年 5 月開催

場所：タワーホール船堀

② 理事会 4 回開催

開催月日：2024 年 5 月 29 日（水）	第 315 回（Web 開催）
2024 年 8 月 9 日（金）	第 316 回（現地＋Web 開催）
2024 年 9 月 3 日（月）～	第 316 回（メール審議）
2024 年 10 月 11 日（金）～	第 316 回（メール審議）
2024 年 11 月 21 日（木）	第 319 回（Web 開催）
2025 年 3 月 17 日（月）	第 320 回（現地＋Web 開催）
2025 年 4 月 16 日（水）	第 321 回（Web 開催）

③ 評議員会 1 回開催

開催月日：2023 年 月 日（ ）～ 日（ ）（調整中）

④ 運営会議 4 回開催

開催月日：2024 年 7 月 18 日（木）（Web 開催）
2024 年 11 月 6 日（水）（現地＋Web 開催）
2025 年 3 月 14 日（木）（Web 開催）

⑤ 委員会

総務委員会	（要開催案件なし）
企画委員会	（5/29、10/25、3/3）計 3 回開催
アドバイザーボード	未実施（再構築中）

⑥現場研修会 2回開催

開催日 : 2024 年 4～9 月、2025 年 3 月予定（未実施）

以上